

■令和 8 年 1 月 7 日 定例記者会見内容

- 1 日 時 令和 8 年 1 月 7 日（水）11:00～11:40
- 2 場 所 市役所本庁舎 3 階 第三委員会室
- 3 出席者 ○市長、副市長、総務部長、企画部長、農林水産部長、市長公室長
○酒田記者クラブ／各社
幹事社／読売新聞・YBC

■市長発表事項

1 酒田市民栄誉賞の贈呈について（総務課）

市長／酒田市民栄誉賞の贈呈についてです。

昨年の 11 月に、本市出身で東京 2025 デフリンピックに出場したお二人の選手がメダルを獲得されました。市民に明るい希望と活力を与えていただいたその栄誉を讃えて、酒田市民栄誉賞を贈り表彰することにいたしました。

なお、令和 8 年酒田市議会定例会第 1 回 1 月招集議会に関係補正予算を提案しております。

受賞者のお一人目は、齋藤京香さんです。水泳女子 4×100 メートルリレーの部門で銅メダルに輝きました。歴史あるデフリンピックに 3 大会連続で出場し、前回の金メダルに続き、今回は見事、銅メダルを獲得されています。常に努力を続けて実績を重ねてこられた姿に、多くの市民が勇気づけられ、大きな希望を与えていただきました。

お二人目は、齋藤心温さんです。サッカー競技において予選を含む 6 試合の全てに出場されています。主要メンバーとして攻守で活躍し、チームの銀メダル獲得に大いに貢献されました。世界規模の大会において、酒田市出身の選手として明るい情報を発信し、市民へ大きな活力を与えていただきました。

酒田市民栄誉賞の概要については、別紙資料をご覧ください。

また、表彰状の贈呈は 2 月 27 日（金）午後 3 時から市役所応接室で行います。

■市長発表事項に関する質問

記者／この市民栄誉賞についてですが、授賞式のときには、表彰状のほかにこういったものを贈呈されるのか、具体的に教えていただけますでしょうか。

部長／表彰状と激励金と盾、船筆筒をモチーフにした記念の盾を贈りたいということでこれから準備をしていくところです。

記者／激励金、奨励金、どちらでしょうか。

市長／激励金と賞状と盾です。

記者／激励金は 1 人いくらでしょうか。

総務部長／10 万円を予定しています。

記者／あともう 1 点、改めて、お 2 人の選手の活躍、酒田市にとってこういった力になったかというところを、もう一度市長からお願いいたします。

市長／3 人の選手が酒田出身としてデフリンピックに出場されたということ自体が、素晴らしいことで、そのうちお2人の方がメダルを取られました。齋藤京香さんは、まだお若いのに3大会連続ということで、若い酒田のレジェンドだと思ってます。また、齋藤心温さんはサッカー競技で、銀メダルでも悔しがっていましたね。金が取れたはずだということで、本当に昨年の最後に明るいニュースをいただきました。

障がいのある耳の聞こえにくい方ということで、障がいのあるなしにかかわらず活躍していただけて、そういう意味でも、市民一人一人が元気に活躍できるまちを目指しておりますので、多くの人が元気づけられたのではないかなと思っております。

記者／ありがとうございます。

総務部長／激励金か奨励金かということについては、今回は奨励金という形でお渡ししたいと考えております。

■代表質問

1 2025 年の酒田市政についての総括、2026 年の抱負につて

記者／事前にお送りしておりましたとおりの2項目でございます。

1 つ目ですが、2025 年の酒田市政を振り返って総括していただきたいということと、新年始まりましたので今年の抱負についてお聞かせいただければと思います。

市長／酒田市政について 2025 年の総括と 2026 年の抱負ということで、もしかしたら少し長くなるかもしれませんが。

2025 年の総括ということで、改めて正月に振り返ってみたのですが、後半はクマと松くい虫に追われていて、それ以外のことがなかなか思い出せないような状況でした。振り返ってみますと、さまざまな懸案事項がありましたが、一つ一つその懸案事項に目途がついた、そういう年だったかなと思っております。

例えば3月には「いじめ重大事態再調査委員会」の報告書が出まして、ご遺族の方の悲しみは癒えないと思いますが、しかし一区切りという時期を迎えることができたかなと思っております。

県立酒田商業高校跡地も懸案でしたが、3 月末には「いろは蔵パーク」が無事にオープンいたしました。

また「旧かんぼの宿」も動きがなかったわけですが、6 月には新しい担い手が、決まったという発表がありまして、酒田市も協定を結びまして、かんぼの宿だけではなく、さまざま動かしていければと思っております。

7 月には、清水屋エリアについて「まちなかグランドデザイン」の官民連携会議が始動いたしました。こちらもち長年の懸案でございましたが動き出したということでございます。

8 月には、第四中学校区の義務教育学校の場所も正式に発表することができました。こちらもち、少しほっとしたところでありました。

また9月には、花火です。こちらもち数年は天候不順でできなかったり、あるいは赤字であったりと、ご心配いただいておりますが、すばらしい花火大会をすることができて、

ほっとしたというところであります。

10 月には、こちらも長年の、もう 50 年近い懸案でありました安田バイパスの開通、それから 12 月には、山形新幹線庄内延伸の県知事要望も行うことができました。こちらも一時休止していたわけではないのですが、少し活動がありませんでした。今年も引き続き、実現のための活動をしていきたいと思っております。

同じく 12 月には、東北公益文科大学の公立化と国際学部の認可が正式に下りまして、こちらも長年の懸案でしたが、実現したということでほっとしております。

大きなこととして、これも長年の懸案でありました、米価が安すぎて「1 年かけて働いても大変だ」という声を聞いていましたが、お米の値段が上昇して、消費者の方は大変でしたが、農家の方にとってはようやく適正価格への道筋、望みも見えてきた 1 年でなかったかなと思っております。

懸案というわけではないのですが、1 つ成果として感じておりますのは「日本一女性が働きやすいまち」ということを掲げてもう 8 年になります。具体的には、女性活躍の「えるぼし」企業の数で日本一にすることで頑張ってきました。10 万人未満の町の中では 9 社ということで日本一になりました。そのことを 1 つの要素として「サステナブルカンパニーアワード」という賞もいただきましたので、1 つ達成できたかなという思いでおります。ただ、女性たちはまだ全然酒田に戻ってきておりませんので、今年も継続して、もっと PR をして女性や若者が戻ってくる、女性や若者でにぎわう酒田にしていきたいと思っております。

一方で昨年解決できなかった、あるいは継続している懸案事項としては当然、一昨年の大雨災害からの復旧・復興、クマ対策、松くい虫対策、それから物価高騰に対する対策が続いておりますので、引き続きこれに取り組んでいきます。

気になっておりますのが 8 月の交通事故です。中学生がまだ入院されていると思いますので、大変心配しております。そういった事故のない安心・安全に暮らせるまちづくりを、今年も進めていきたいと思っております。

2026 年の抱負ですが、年頭の挨拶で、いろんなところで言っておりますが、東京都内の松屋銀座で「傘福」の大きな展示があったということは本当に嬉しいことでした。市民の皆さん、女性の皆さんが 20 年かけて復活させてくれたものが、日本中あるいは世界からも評価され、松屋銀座の 100 周年の迎春装飾として採用されたと思っております。このように酒田には市民の力による本当に素晴らしいものがたくさんあります。傘福だけではありません。「2026 年に行くべき世界旅行先 25 選」に山形県が選ばれておりますから、今年は多くの方が傘福をはじめ、酒田の良いものを見にくる年になると思っております。クルーズ船も 20 回以上寄港いたします。JR の陸羽西線も再開いたしまして、夏には JR の重点対策が始まります。そして、年末には中心市街地に新しいホテルもオープンする予定になっております。多くの観光客に来ていただいて、酒田の良いものを楽しんでいただき、経済効果を出していく 1 年にしていきたいと思っております。

また、観光客だけではなくて、繰り返しですが、若い方、女性男性、酒田出身者はもち

ろんですが、酒田以外の方も、酒田はすばらしいと言って、移住をしてくる、そういう 1 年にしていきたいと思います。そのために先ほど申し上げた、農業の活性化、農業の振興、それから、再生可能エネルギーや IT など、そういった分野の産業振興に力を入れていきたいと思っています。

また、今年は酒田大火から 50 年という本当に酒田にとっては大事な 1 年でもあります。大雨災害からの復興も含めまして、防災ということ、広く安心・安全に暮らせるまちをつくるということに力を入れていきたいと思っています。

「まちなかグランドデザイン」も出来上がる予定でございますので、それに基づいて、街中のさまざまな動きも出てくることを期待したいと思っています。

2 米どころの酒田市として国の米政策の現状についての所感及び要望について

記者／2 つ目です。今お話も少し出ましたが、酒田市主要産業で米どころということもありますので、国の米政策の現状についての所感をいただき、何かご要望したい事項、今年はこれを特に強く国なり大臣なりを通じてでも、いろいろ訴えていきたいというところがありましたらお聞かせください。

市長／山形県選出の方が、農林水産大臣を務めてくださっていることを大変心強く思っております。昨年は米価が大変な年でありましたけれども、一番大事なことはやはり消費者にとっても、そして生産者にとっても納得できる米価の安定ということが本当に一番大事なことだと思っています。そのためには、大臣のおっしゃるように、需要に応じた生産、これをしっかりやっていくということが私も一番大事だと思っています。需要より多く作ってしまうと、価格が下がってしまいますし、需要より少ないと昨年のように、値が上がってしまうということになりますので、需要に応じた生産が大事。そのためには、国には今までも出していただいておりますが主食用米の需給見通し、これをより精緻なものにして、主要主食用米の需給見通しをぜひ出していただきたいとお願いしたいと思います。昨年 6 月に成立した食料システム法に基づいて、生産コストを考慮した価格形成ということがうたわれておりますから、生産コストを考慮した価格形成そのための施策をぜひとも進めていただきたいとお願いしたいと思います。また、高齢化あるいは人手不足は農業分野でも続いておりますので、やはり基盤整備が大事であります。用排水路の管路化などの基盤整備には多大な予算が必要で、酒田市だけではとてもできませんので、農業農村整備事業の予算確保をぜひお願いできればと思っています。

記者／国へもお願いしていきたいということでしたが、具体的に何か検討されていることはございますか。省庁を回るとか、直接要望書などを渡しにいくようなことがあるかと思いますが。

市長／今のところは特にございませんが、12 月に農業ではなく林業の方でございましたけれども、森林の松くい虫のことを大臣に直接見ていただきまして、そのときに国県市あるいは関係の組合、事業者、全員で有意義な情報共有が図れたと思っています。それに基

づいて、それぞれやることをやっていきたいですし、もし12月の話し合いのとおりに行っていないところがあれば、そこは大臣にも直接またお話できる機会があれば嬉しいなと思っております。

記者／引き続きお米の価格のお話も含めてのところになるかと思いますが、私が確認不足かもしれませんけれども、いわゆるおこめ券の対策については、酒田市はどのようにされることになっていますか。

市長／議会答弁でお答えしましたが、おこめ券は使わない予定でおります。

記者／代わりにどのようなものをお考えですか。

市長／代わりはまだ決定はしておりませんが、有力な候補はいつもやっておりますキャッシュレス決済ポイント還元が1つ有力な手段かなと。今まだ検討中でございます。

記者／それは、新年度予算に盛り込んで今策定中ということですね。

市長／はい。

記者／分かりました。

■フリー質問

1 群馬県前橋市長選挙について

記者／酒田市政とは直接関係のないお話なのですが、群馬県前橋市出直しの市長選挙が告示されて今行われております。市長選に至った事態についてはご承知かと思います。日本一女性が働きやすいまちを掲げ取り組んでいる酒田市の市長として、あるいは山形県内では数少ない女性の政治トップリーダーとして、前橋市長選はどのように届いていらっしゃるでしょうか。

市長／女性男性は関係ないかなと思っております。市長が一旦お辞めになってもう1回出るという決断をされたわけですから、それでよろしいのではないかなと思います。

記者／質問の角度を変えてもう一度お尋ねしたいのですが、前橋市前市長と国民民主党代表の玉木雄一郎さんの事案というのは構図が全く同じかと思うのですが、片一方で玉木さんの場合には、当該規約に基づく役職停止3か月の処分が終わって、昨年もいろいろ政策実現ということで取り組まれた。前橋市の場合は、全国的な問題にもなり議会等はその不信任を突きつけるという事態になっている。この違いというのは、どこに起因するとお考えでしょうか。

市長／いろんな違いがありますよね。なかなか難しいですね。でも国民あるいは市民がどう見ているかということなので、その国民の代表が国会議員でありまた市長でいらっしゃいますから、世間がどういう評価をしているかということも含めて、国民あるいは市民の判断ということですので、なかなか私の方から評価するのは難しいです。

2 大雨災害からの復興状況について

記者／少し目途が立ってきたというような大雨災害の関連でございますが、現状で把握されている、酒田市の場合はみなしの仮設住宅ということで市営の住宅や県のものをお借り

して対応されておりました。この既定の2年で大丈夫な方もいらっしゃるでしょうし、いろいろご要望を伺ってる中で2年では厳しいということで、延長を求められている方もいらっしゃるかもしれません。聞き取りの状況で、期間を伸ばす必要がある方たちや自宅再建でありますとか、どこか別な場所に移ることが決まっていないう方は、どの程度今いらっしゃるのか、それについては県や国にはどのようなお願いをしていくことになるのでしょうか。

建築課長／現在みなし仮設住宅、公営住宅等に住んでいる方はいらっしゃいますけれども、ほぼ動向的には決まっているところでございます。大半の方は市営住宅に住んでいる方で市営住宅に継続して住み替えを行うと。これは2年間の無料期間が終わった後です。

また、みなし仮設住宅の方というのは、おそらく再建が間に合わない方もいらっしゃいますので、継続して自身の家賃で支払っていただくような形にほとんどの方が切り替わるというところでございます。現在最終的に方向性が見えてないという方は1名ほどいますが、資力ががありますので、民間等の賃貸住宅に移られるのではないかとこのところでございます。把握しているのはこういう状況ですので、行き先が決まってないという方は見えていないという状況でございます。

記者／まとめますと、その期限内に移る方向で皆さんそれぞれ、市営住宅なら住み替えて、あるいはご自身の再建が多少前後するかもしれないが間に合うという方、どうするか決まっていないう人がお1人いるが、その方がご自分で対応可能なある程度資産お持ちだということなので、民間のもので対応できるだろうということで、酒田市の場合は、いろんなことが困難になっている方、生活再建が困難になっている方はいらっしゃるということになりそうだとこのことでよろしいでしょうか。

建築課長／現在再建中というのは住宅が被災しておりますので、個々の事情は大変だと思いますけれども、住宅の住み替えとかですね、引き下げに目途がついてない方がいないというような状況でございます。

市長／今は住宅の話だと思いますが、日常生活で支援が必要だという方も当然いらっしゃいます。それは昨年、あるいは発災以降ずっとそうですが、関係部署一丸となってチームを作って情報共有会議をして、全ての被災者が安心してきちんと暮らせるように今もきちんと定期的に打ち合わせの機会を持っておりますので、何とか支えて相談に乗っているところであります。

記者／ありがとうございます。

記者／今の関連でお聞きしたいと思います。大雨災害で、酒田市はみなし仮設住宅が、7世帯でしょうか。数字の確認をさせてください。

市長／現在、みなし仮設住宅は7世帯です。

記者／いわゆる災害復興住宅というのは、集落ごとに同じ集落の何世帯ではないので、今作るつもりはないという形で、現状的には再建して戻っていただくか、あるいは新たにどこかに住むということは、現状的には7世帯は戻れないという形なのですか。

建築課長／みなし仮設住宅 7 世帯について、手持ちに個別の資料がありませんので、答えられませんが、実際には家を再建する方が、この 7 世帯うち半数ぐらいが現在建設中です。別の場所に移転する予定というところがございます。みなし仮設住宅の無料期間が終わった後、自己でどちらの居宅を求めるのか、まだ決まってないという方もいます。おそらくその方は、現在のみなし仮設を賃貸住宅に切り替えて、しばらくの間は住み続けるというようなところがございます。また、この方についても、酒田市の公営住宅、県営住宅等に、条件さえ合えば住み替えできますので、居住に困ることはないといった状況でございます。

記者／そうすると再建してない方は、生活再建支援金というのは受け取ってないという形になるのですか。

市長／あとで担当部署の方で答えさせていただきます。定例記者会見資料の再建支援区分の区分がいいと思うのですが、日常生活に支援が要る世帯と住まいの再建に支援が要る世帯を 2 つに分けております。日常生活と住まいとの両方の支援が必要な世帯があり、日常生活支援世帯が、今 5 世帯残って、住まいの再建支援世帯が 15 世帯、そして両方必要な世帯が 2 世帯、そして残り 232 世帯は再建可能世帯と判断されて、徐々にこの再建可能世帯が増えてきている状況になっているところがございます。

記者／もう 1 点だけいいですか。みなし仮設住宅は 2 年という形なんですけども、3 年に延長するという形はないのでしょうか。例えば世帯数などがあると思うのですが。ちなみにその 2 年というのは、今は災害救助法に基づいて 2 年なののでしょうか。20 年前の大震災などは仮設住宅はプレハブなので、建築基準法だったと思います。これは県の方で行っている形になりますか。それは分かなければあとで確認させてください。

市長／あとで答えさせていただきます。

3 クルーズ船受け入れの今後の展開について

記者／クルーズ船のお話なのですが、来年度は 20 回超えということで、今年度は 8 回でしたでしょうか。

市長／この 3 月に 2 回寄港予定ですので、それを入れますと 10 回ということです。

記者／倍になるということなのですが、受入れる形としては観光振興もあるだろうし、それから国際交流もあるだろうし、あるいはほとんどクルーズというのは民間の旅行会社なので、どういう評価をされているのか。持続可能な形で今後どういう展開といいますか、受け入れも含めてクルーズ船をどのような形でまちづくりに生かしていくかお考えがあればお聞かせください。

市長／クルーズ船を酒田市が熱心に誘致している目的は、2 つあると思ってしまして、1 つは当然、先ほど来申し上げてる経済効果。2 つ目は、やはり単純に楽しいですよ。外国のかたがたくさんいらっしゃるクルーズ船寄航のときだけは、酒田が酒田でないような、外国にいるような、外国のかたと直接お話できるだけで楽しいし、学生の外国語の勉強にもなると思いますので、その 2 つの目的で行っています。受け入れ体制はこれまでの経験もありますので、少しずつ省力化と言ったら失礼なのですが、効率よく合理的に行う、あ

るいは市民も大分経験して蓄積されていますので、市民の力でできるところはやっていただきますように、少しずつ少しずつ移行していけばいいと思っております。実際に市民の方からも、もう自分たちでやるからと言われることもあります。そこは少しずつ、全部押し付けるということではなくて、市役所、県の担当部署と、市民の関心のある方々と話し合い調整をしながら、少しずつ民間の力に寄っていけばと思っております。

■その他

なし